

これで勝負！

大消費地にいどむ

首都圏農業

■ 138 □

狭山市 白倉 崇弘さん

【埼玉】全国でも有数の里芋産地である狭山市。同市の里芋は高品質で市場評価が高く、食感
はねっとり柔らかく粘り気が強いのが特徴だ。

市内で13代続く白倉農園代表の白倉崇弘さん(43)は、里芋を主力に両親、妻らと4・5畝の畑で営農している。土づくりに特に関心を持ち、地元養鶏場からの堆肥や有機質を多く入れて、水はけや、根の張りが良くなるよう工夫している。



Ⓐ白倉さん、Ⓑ里芋コロッケ

白倉さんの里芋は特にきめが細かく滑らかなのが特徴。父親の代と併せて5度農林水産大臣賞を受賞している。

白倉さんは里芋をPRするため、若手農家で結成した「さやま里芋増産倶楽部」に所属し、現在会長を務めている。里芋はげんちゃん汁や煮物にすることが多いが、同倶楽

部では若者にも気軽に食べてもらえるよう、農商工連携による取り組みとして「里芋コロッケ」を開発した。

コロッケには親芋を使用。親芋は子芋や孫芋に比べてえぐみが強く固いため、これまで市場流通が難しかったが、油との相性が良いことがわかり



有効活用した。クリームでまろやかな食感、里芋のほくほく感もありおいしいと人気だ。

今後について白倉さんは「自分も父親の背中を見て育ってきたので、息子にも『農業っていいな』と思ってもらえる経営と活動をしていきたい。まずは、定期的に休日を確認し、農作業と余暇が両立するよう意識する。農業が魅力ある職業であることを広めていきたい」と思いを語った。

里芋に新たな付加価値